神の奥義1 ~キリストのからだ(教会)として生きる~

１、奥義

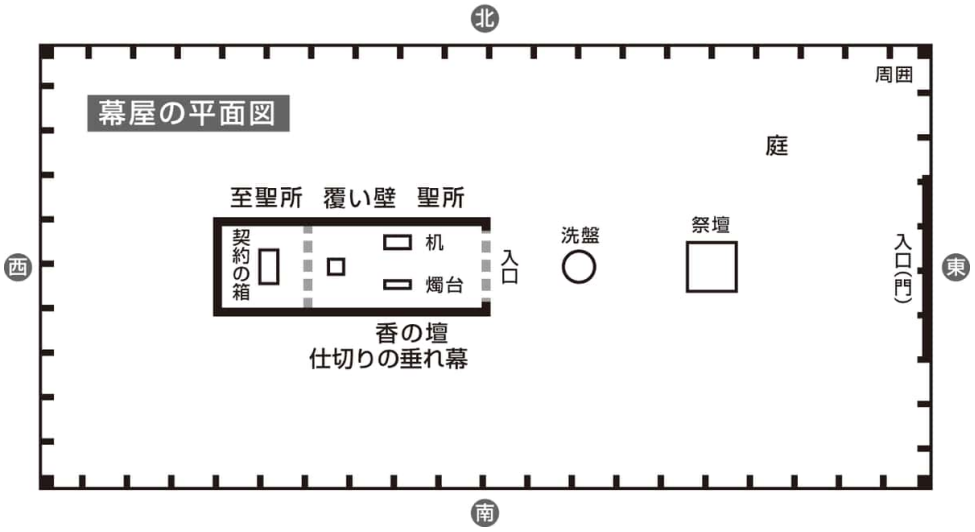
ギリシャ語だとμυστήριον(ムステリオン)　神の隠された計画（ミステリーの元）

これまでの講義で学んできた「神の計画」、これがいわゆる奥義と言われるもの。しかしそれらは今まで隠されていました。しかし、イエス様を通してそのベールは取り除けられ、イエス様を通して開かれた。イエス様を信じる信仰が無いのならまだ隠されたまま。

２、御国の奥義をあらわしてきた媒体

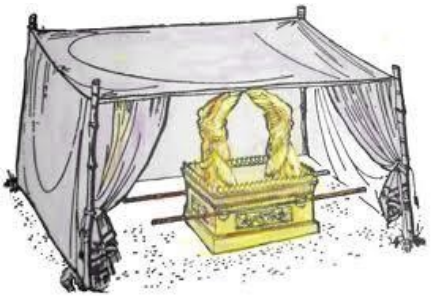
①モーセの幕屋

罪の贖いが中心、神の栄光が表された場所。イスラエルの心臓部分。生贄によって罪の贖いがなされ、全ての例祭の土台部分となり、年に一度大祭司が至聖所に入りイスラエルの贖いがなされ、ケルビムの間から神の御心が語られた。



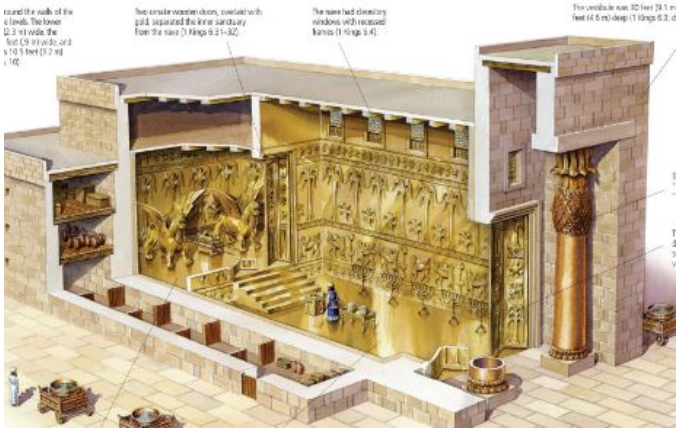
②ダビデの幕屋

礼拝の本質が開かれた。初めて神の前に賛美で礼拝をする。賛美の中に主の臨在が主の栄光があった。動物ではなく賛美の生贄が捧げられた。非常に新約的なスタイル。天の礼拝の写しのような礼拝。



③神殿

モーセの幕屋とダビデの幕屋の合体版。聖所の中は黄金で覆われている。黄金は神の国を表すものであり、それらが特別な人しか見ることができない、隠されたものつまり「神の国の奥義」を表すものであった。ここにも神の栄光があらわされた。賛美も捧げられた。



３、教会

これら三つの媒体が証したものは神の国であり、神ご自身の計画でした。そしてそれらは、キリストの姿を証するものでもあったのです。キリストによる罪の贖いにより、神と人が共にあることになる。そしてその中には賛美が溢れること。まさしく、天の御国を証するものでした。

「これらは、次に来るものの影であって、本体はキリストにあるのです。」

コロサイ２：１６、１７

そしてそのキリストのからだが教会です。神の国に召されて集められた「エクレシア」。

つまり教会はこれらのものが証してきたものであり、幕屋や神殿よりさらに開かれたところです。神の栄光をあらわすところであり、天の礼拝がいつもそこにある。なぜならキリストが中心におられ、キリストによって繋げられた神の国をあらわす交わりだから。

４、教会という奥義

ローマ１１：２５、１６：２５

Iコリント２：７、４：１、１３：２、１４：２

エペソ１：５～１２　、３：３～最後、５：３２

二つが一つにされ、神の前に集められ、神がほめたたえられる。天の出来事が地になる。つまり神の祝福の計画が、教会を通して証され、実行されていく。私たちは教会は頭なるキリストの御心が語られ、それを実行するからだ。互いに比べ合い挑み合い噛み合うような関係ではなく、キリストを通して一つにされる集まり。イエス様を賛美することによって一つとなる集まり。

キリストの花嫁なる教会、キリストのからだなる教会が軽んじられてはならない。もちろん建物、組織、は教会ではないとか所詮人間の集まりだから、とか、会議が多いとか、、、いろんな批判があり、その全てが全肯定されるべきことではありませんし、神の家から裁きは始まるので、いつも悔い改めて新しくされる必要がありますが、だからと言って教会を軽んじてはなりません。神の計画の集大成であり、これ以降、神の国を証するものはもう出てきません。神の栄光をあらわす媒体はもうありません。あるとするなら、新しい天と地です。教会の本来の姿をいつも覚え、教会の本質である賛美と礼拝をいつも捧げましょう。